

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

本学の建学の精神は、「生气あふれる開拓者精神」である。また、教育目標として「生气あふれる人間」「知性豊かな人間」「信頼される人間」の育成を掲げた。本学開設当時は、北海道が開拓の始まりから100年を迎えた時期であり、先人たちが苛酷な気候条件と戦いながら、ひるまぬ心とチャレンジ精神をもって開拓を成し遂げた、その逞しい人間像を建学の精神に重ね合わせ、人材育成のための3つの要素（生气・知性・信頼）を教育目標に織り込んだものである。そして、この目標を達成するため、以下に掲げる5つの教育方針にもとづき教育課程の編成・運営を行う。

- 1) 北海道から世界へはばたく、視野の広い人間を育てます。
- 2) 個性をみがき、夢の実現を目指す人間を育てます。
- 3) 幅広い教養をもち、人生を豊かにできる人間を育てます。
- 4) 地域を愛し、社会貢献の意欲に富んだ人間を育てます。
- 5) 環境に配慮し、未来に責任をもつ人間を育てます。

平成25年4月には、大きく変化する大学を取り巻く環境に対応するべく、それまでの5学部制を廃止し、13専攻を有する1学群（学部）1学域（学科）「地域共創学群人間社会学域」を開設した。地域共創とは、「地域において他者と共に新しい価値を生み出す」ことである。その理念は大学の「教育目標及び人材育成の目的」として「札幌大学学則」第9条において以下のように明文化している。

- 1) 急速に変化する現代の社会が抱える様々な課題に、広い視野と総合的な知識・判断力によって、総合的に対処できる人材を育成すること。
- 2) 地域において他者と共に新たな価値を創造する力、すなわち「地域共創力」を身につけた人材を育成すること。
- 3) 経済学、経営学、法学、外国語学、文化学などに関する専門知識を駆使して、参加と協働による持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成すること。

その後、数度の専攻再編を経て、令和6年4月から、1学群8専攻の編制としている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

人間社会学域は、「地域共創」の教育理念の下で、分野横断型の学びを通して、複眼的な専門性と幅広い教養をもち、地域社会に貢献する人材を育成する。地域が抱える諸課題は、政治、経済、産業、社会、文化、国際など、様々な側面をもつ。したがって、「地域共創」の要素も多岐にわたり、相関的である。このため、唯一の学科等として地域共創学群を担う本学域は、ヒトと社会に関わる総合学問領域を教育研究の対象とする。本学域では人文科学・社会科学・自然科学・学際分野の基盤教育と、経済学、外国語（英語）、経営学、法学、文化学の6つの基礎分野をベースとする8専攻を自在に組み合わせ、「地域共創」に必要な多角的な教育を実現する。なお、人間社会学域では、いずれか一つの専攻を主専攻として修了することを要件として学位が授与される。学位の種類は、専攻ごとに一つずつ（学士（経済学）、学士（英語）、学士（経営学）、学士（法学）、学士（文化学）の何れか）定められる。

本学域の学びは、「多様性」、「主体性」、「地域連携・社会貢献」という3要素を特色とする。これらを実践するため、個性的な教育システム・プログラムを用意し、地域共創をテーマとした主体的な学びの場を提供し、教員・事務職員が学生の学びを支援する体制を整えている。

具体的な特色の1つ目は、学びの多様性を保証する「主専攻・副専攻」、「レイトーマッチング」という教育システムである。1学群1学域に置かれた学位の基本単位となる8専攻の中から「主専攻」を選択して学ぶのであるが、「主専攻」は2年次からも選択や変更が可能である。

2つ目の特色は、学生が主体的に学ぶためのプログラムを複数開講している点にある。様々なテーマによる実践的な活動の中から、興味・関心に応じて選択・参加できる「アクティブ・プログラム」を

展開している。これは、活動テーマごとに設けられた推奨科目の学修により、活動に必要な知識の修得と実践体験が相まって、主体的な思考力、行動力、コミュニケーション力などが身につくアクティブ・ラーニング型のプログラムである。

3つ目の特色は、大学の専門知識や研究成果の社会への還元と、大学と社会が協働し、新たな知見を得て地域貢献へ繋げていくようなプログラムの充実にある。令和4年6月には、地域や高校、企業との連携協働により、新たな価値創造と地域課題解決の取り組みを推進する「核」として、「地域連携センター」を開設した。本センターでは、学生が地域社会との連携を通して、本学の掲げる教育目標の一つである、「地域において他者と共に新たな価値を創造する力、“地域共創力”を身につけた人材」として成長し、地域社会の発展に貢献することを目指し、大学と地域社会を繋ぐ役割を担っている。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

本学は昭和42年の開学以来、教員養成を大学が果たすべき地域貢献の柱と位置づけ、数多くの教員を社会に送り出している。本学の教員養成の理念は以下に掲げる5つの項目からなる。

- 1) 広い教養と豊かな人間性を備えた教員を養成する。
- 2) 愛情をもって子どもを理解し、子どもを尊重する教員を養成する。
- 3) 確かな理論に基づき、創造性と行動力に満ちた教員を養成する。
- 4) 郷土の歴史と文化を踏まえ、地域社会の教育を担う教員を養成する。
- 5) 学校教育を生涯学習・生涯教育の一環ととらえ、地域社会に寄与する教員を養成する。

地域において人材を育てる教員の養成は、「地域共創」の根幹となる営為である。本学は長年にわたり、確かな人間性の上に、幅広い教養と専門的知識・技能を兼ね備えた有為な教員を数多く輩出してきた。令和7年3月には、大学の創意工夫に基づく先導的な取組の実施に関する教育課程等の特例について文部科学大臣の認定を受けた。この特例制度を活用して、教職課程をより効果的に実施する観点から、教員養成フラッグシップ大学の指定を受けた大阪教育大学との大学間連携により先導的な授業科目を自ら開設できる仕組みを構築する。本連携により、教職課程を効果的・効率的に展開するとともに、多様な子どものニーズに対応した先導的な教職科目の受講を可能とする。今後も、これからの地域社会の将来を展望した教育のあり方や課程認定大学に求められる社会的役割を常に意識し、全学的な共通認識・体制に基づいて教職カリキュラムの改善・充実、地域や学校との連携、授業の質的向上等に取り組む。このことによって、「地域共創」の気概と資質を兼ね備えた新しい時代の教員を養成し、我が国の学校教育の充実・発展に寄与したい。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

人間社会学域が掲げる「地域共創」の教育理念と、分野横断型の学びで地域社会に貢献する人材を育成するという教育方針は、本学域における教員養成においても、すべての教職課程に共通の目標となる。「地域共創学群人間社会学域」という学科等の立場からは、地域において人材育成を担う教員の養成は、「地域共創」の根幹的営為として位置づけられる。一方、教員養成の観点からは、地域に根ざしたキャリア教育やサービスラーニングなどが高校等の教育現場でも一般化しつつある今日、「地域共創」の気概と資質は、教員であれば誰もが備えるべき基本的な特徴となりつつあるといえる。

「地域共創」の教育理念にそった教員養成を実現するため、以下の要素が組み込まれた全学共通の基盤教育を活用する。

- 1) 英語、中国語、韓国語、ロシア語、フランス語のいずれか1言語を最低1年間学修しなければならない（地域のグローバル化への対応）。
- 2) インターンシップも含むキャリア科目において地域の産業界を実地に学ぶことができる。
- 3) ボランティアや学外研修など、地域の現場で実習し、自立性、自発性を養うアクティブラーニン

グの機会が多く提供される。

4) 地域共創に関わる導入科目として、地域共創入門、札幌学入門、SDGs・GX入門などを学ぶことができる。

また、2年次以降に展開する専攻教育でも、各専攻に地域の政治、経済、産業、社会、文化に関わる科目を開設する。関心に応じて主専攻の専門知識を深めるとともに、副専攻との組み合わせにより学びの幅を広げることができる。「地域共創」とは、他者と協力しながら地域に新しい価値を作り上げる行動原理であり、多様な学びの中で、地域課題の発見・解決に向けた探究活動を通じ、地域と共同しながら課題の解決に取り組める人材を育成する。なお、特例制度を活用した大阪教育大学との連携開設科目として開設する「生徒指導論」及び「進路指導論」は、北海道の教育現場においても課題となっている、いじめ・不登校などの複雑化する生徒指導上の諸課題への対応、変化し続ける社会におけるキャリア形成を支えるための進路指導の理論及び方法について、ダイバーシティの観点に基づいた先導的カリキュラムで学修する機会となる。

なお、本学は、すべての教員志望者が特別支援教育の素養を身につけることを目指している。生徒一人ひとりの性質や状態、置かれた環境を踏まえながら、個々のニーズに適切に対応する特別支援教育は、本学が教員養成の理念に掲げる「子どもを理解し、子どもを尊重する」教育に不可欠の要素である。北海道教育委員会は、「特別支援教育に関する基本方針」（令和5年3月）を定め、障がいのある子どもと障がいのない子どもがともに学ぶ共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの理念の下、すべての子どもたちが、障がいの有無にかかわらず、多様な個性を互いに認め合い、支え合いながら、ともに学んでいくことができる環境を醸成し、誰もが生き生きと活躍できる社会が実現するよう、特別支援教育を推進している。本学では、すべての教職課程が一学域に収められていることを活かし、教員志望者全員に特別支援教育の素養を持たせていく。大阪教育大学との連携によってフラッグシップ指定科目「ダイバーシティと教育」を「大学が独自に設定する科目」として新たに開設する。多様性とその価値について理解を深め、学校・地域との連携の中で、子どもの Well-being（福祉）の実現をめざす教員、学校現場における多文化共生の課題に対応できる教員を育成する。この点においても、地域社会に求められる教員の輩出を目指す「地域共創」の理念の実現を図る。

一方、分野横断型の学びで地域社会に貢献する人材を育成する観点からは、1学域8専攻として全学の教育資源を一体化したメリットを最大限活用する。また、複眼的な専門性ととも幅広い教養を培う観点からは、全学の基盤教育を共通化することによって、人文科学・社会科学・自然科学・学際分野の諸科目がバランスよく配置され、質・量とも、教員に相応しい教養を身につけるのに十分なプログラムが提供されている。

また、教員に求められる専門的知識・技能を身につけるために、学位の種類を専攻ごとに一つずつ（学士（経済学）、学士（英語）、学士（経営学）、学士（法学）、学士（文化学）の何れか）定め、各教職課程を組み込む専攻を原則、一課程につき一専攻に限定する。各教職課程に相応しい学位授与の対象となる専攻を主専攻として修了しない限り当該教員免許状を取得できなくする仕組みによって、学位別に分かれた学科に教職課程を設置する場合と同等の専門性を担保する。なお、各教職課程とそれが組み込まれる専攻の対応関係は以下の表のとおり。

表 教職課程・専攻・学位の対応関係

免許状の種類と免許教科・領域	専攻（学位の種類）
中学校教諭一種（国語）、高等学校教諭一種（国語）	日本語・日本文化（文化学）
中学校教諭一種（社会）	法学（法学）、歴史文化（文化学）
高等学校教諭一種（地理歴史）	歴史文化（文化学）
高等学校教諭一種（公民）	法学（法学）
中学校教諭一種（保健体育）、高等学校教諭一種（保健体育）	スポーツ文化（文化学）

中学校教諭一種（外国語）、高等学校教諭一種（外国語）	英語（英語）
高等学校教諭一種（情報）	経営学（経営学）
高等学校教諭一種（商業）	経営学（経営学）

そのうえで、複眼的な専門性を培うために、1学域に統合したメリットを活用する。教職志望者には、志望する教職課程が組み込まれる専攻を主専攻として修了するだけでなく、関連する分野についても、その分野に対応する専攻を副専攻として体系的に学修し、教職に必要な専門性を総体的に涵養することを奨励する。例えば、中学校教諭一種の社会科の免許状の取得を目指す場合、歴史文化専攻を主専攻とするだけでなく、法学専攻を副専攻として修めておけば、中学社会科のより多くの単元について、専門的な知識を身につけることができる。また、高等学校教諭一種の商業の免許状の場合には、経営学専攻を主専攻として修めさせると同時に、経済学専攻を副専攻として学修させることによって、商業をとりまく経済全体の動きについても専門的見地から解説できる、実践的専門性を備えた教員の養成が可能となる。

（3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

①学校種別の設置趣旨

【中学校教諭一種】

中学校学習指導要領には「生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していく」と述べられ、「社会に開かれた教育課程」の観点から、地域と連携・協働しながら目指すべき学校教育を実現することが求められている。「地域において他者と共に新たな価値を創造する力、すなわち「地域共創力」を身につけた人材」の輩出を目指し、「急速に変化する現代の社会が抱える様々な課題に、広い視野と総合的な知識・判断力によって、総合的に対処できる人材を育成すること」に取り組む「地域共創学群人間社会学域」に中学校教諭一種の課程を設置することは、地域と連携・協働しながら教育活動に向き合う人材を養成する観点から意義がある。

【高等学校教諭一種】

高等学校学習指導要領には「学校においては、地域や学校の実態等に応じて、就業やボランティアに関わる体験的な学習の指導を適切に行うようにし、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させ、望ましい勤労観、職業観の育成や社会奉仕の精神の涵養に資するものとする」と述べられ、地域社会における体験教育が不可欠であるとの認識が示されている。「地域において他者と共に新たな価値を創造する力、すなわち「地域共創力」を身につけた人材」の輩出を目指し、「急速に変化する現代の社会が抱える様々な課題に、広い視野と総合的な知識・判断力によって、総合的に対処できる人材を育成すること」に取り組む「地域共創学群人間社会学域」に高等学校教諭一種の課程を設置することは、地域と連携・協働した教育活動を高いレベルで実施できる人材を養成する観点から意義がある。

【特別支援学校教諭一種（知的障がい者・肢体不自由者・病弱者）】

特別支援教育制度がスタートして、障害のある児童生徒の教育は、従来の特別な教育の場のみならず小・中学校、高等学校の通常の学級においても適切に対応することが求められるようになった。その結果、特別支援学校や特別支援学級での教育を希望する児童生徒は増加の一途をたどっている。さらに、通常の学級においては、発達障害のある児童生徒への対応に苦慮している実態がある。地域社会は今、特別支援教育に素養のある教員の一般的養成を切実に要請している。

また、特別支援教育は、特別支援への社会的理解を基盤として、十分な機能を発揮することができる。しかし、障がい者に対する特別支援の必要性、重要性の認識が進み始めたのは最近のことである。

こうした現状においては、特別支援教育に携わる者は、単に担当する児童生徒を教育するだけでなく、広い視野に立って、特別支援教育の社会的意義を理解し、そのことを社会に向けて発信する力をもたなければならない。つまり、特別支援学校教員はスペシャリストであると同時に、ジェネラリストでなければならない。

以上をふまえ、「地域共創」を教育理念とし、分野横断型の学びで地域社会に貢献する人材の育成に取り組む本学域に特別支援学校教諭一種の課程を設置する意義を認め、五感を動員する身体トレーニング、コーチング、カウンセリングなどの分野で特別支援教育と親和性の高い教育研究を行うスポーツ文化専攻に特別支援学校教諭一種（知的障がい者、肢体不自由者、病弱者）の課程を組み込む。

②免許教科別の設置趣旨

【国語】

中学校学習指導要領（国語）及び高等学校学習指導要領（国語）には「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成することを目指すという目標が示されている。一方、人間社会学域の教育理念「地域共創」の基本要素「他者との協働」は言語によるコミュニケーションがベースであり、また、「共創」の対象となる地域文化において言語文化は枢要な位置を占める。以上をふまえ、「地域共創」を教育理念とする本学域に国語の教職課程を設置する意義を認め、日本語・日本文化専攻に中学校教諭一種（国語）および高等学校教諭一種（国語）の課程を組み込む。

【社会】

中学校学習指導要領（社会）には「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成することを目指すという目標が示されている。一方、「地方自治は民主主義の学校」という言葉があるように、市民的資質は地域における地方自治を通じて養われる。また、「共創」の対象となる地域文化において歴史文化は枢要な位置を占める。以上をふまえ、「地域共創」を教育理念とする本学域に社会の教職課程を設置する意義を認め、法学専攻および歴史文化専攻に中学校教諭一種（社会）の課程を組み込む。

なお、本免許取得者は法学と歴史文化、両方の素養を兼備することが望まれる。このため、いずれかの専攻を主専攻として本課程を修める学生には、もう一方の専攻を副専攻として履修することを推奨する。

【地理歴史】

高等学校学習指導要領（地理歴史）には「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力」を育成する際に、「現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」（知識及び技能）などの目標が示されている。一方、「共創」の対象となる地域文化において地誌や歴史は枢要な位置を占める。以上をふまえ、「地域共創」を教育理念とする本学域に地理歴史の教職課程を設置する意義を認め、歴史文化専攻に高等学校教諭一種（地理歴史）の課程を組み込む。

【公民】

高等学校学習指導要領（公民）には「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力」を育成する際に、「現実社会の諸課題の解

決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う」(思考力、判断力、表現力等)などの目標が示されている。一方、「地方自治は民主主義の学校」という言葉があるように、公民的資質は地域における地方自治を通じて養われる。以上をふまえ、「地域共創」を教育理念とする本学域に公民の教職課程を設置する意義を認め、法学専攻に高等学校教諭一種(公民)の課程を組み込む。

【保健体育】

中学校学習指導要領(保健体育)及び高等学校学習指導要領(保健体育)には「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するという目標が示されている。一方、人間社会学域の教育理念「地域共創」の対象となる地域文化においてスポーツ文化は枢要な位置を占めており、スポーツ文化専攻では多様性ある社会をスポーツから構想できる人材を育成することを目的に据える。以上をふまえ、「地域共創」を教育理念とする本学域に保健体育の教職課程を設置する意義を認め、スポーツ文化専攻に中学校教諭一種(保健体育)および高等学校教諭一種(保健体育)の課程を組み込む。

【外国語(英語)】

中学校学習指導要領(外国語)及び高等学校学習指導要領(外国語)には「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成することを旨とするという目標が示されている。一方、人間社会学域の教育理念「地域共創」の基本要素「他者との協働」は言語によるコミュニケーションがベースであり、グローバル化する地域社会においては外国語も必須である。また、「共創」の対象となる地域文化において言語文化は枢要な位置を占める。以上をふまえ、「地域共創」を教育理念とする本学域に外国語(英語)の教職課程を設置する意義を認め、英語専攻に中学校教諭一種(外国語)および高等学校教諭一種(外国語)の課程を組み込む。

【情報】

高等学校学習指導要領(情報)には「情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力」を育成することを旨とするという目標が示されている。一方、人間社会学域の教育理念「地域共創」の対象となる地域の経済社会活動において情報技術の駆使は必須であり、経営学専攻では持続可能な経営体の発展に貢献できる人材を育成することを目的に据え、情報経営コースでは情報を効率的に活用して解決に導く力を身につける。以上をふまえ、「地域共創」を教育理念とする本学域に情報の教職課程を設置する意義を認め、経営学専攻に高等学校教諭一種(情報)の課程を組み込む。

【商業】

高等学校学習指導要領(商業)には「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力」を育成することを旨とするという目標が示されている。一方、人間社会学域の教育理念「地域共創」の対象となる地域の企業・経済活動において商業の知識は基本であり、経営学専攻の経営・会計コースでは、経営資源を活用して解決に導く力を実践的に身につける。以上をふまえ、「地域共創」を教育理念とする本学域に商業の教職課程を設置する意義を認め、経営学専攻に高等学校教諭一種(商業)の課程を組み込む。

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	教育研究協議会
目的：	教育及び研究の基本方針に関すること、学則及び諸規程の制定、改廃に関すること、教員組織に関すること、教学予算に関すること、その他大学の組織及び運営に関することについて審議する。
責任者：	学長
構成員（役職・人数）：	教育研究協議会（以下、「協議会」という。）は、学長、副学長、学群長、学系長及び学長が指名する委員会の委員長をもって構成する。 令和7年度の構成人数は14人。
運営方法：	協議会は学長が招集し、議長を務める。協議会における職務の補佐役として、副議長を指名することができる。協議会の審議は、学群における教授会の審議とする。協議会は、学長が次に掲げる事項について、学長が決定を行うにあたり、意見を述べる（1）学生の入学、卒業及び課程の修了（2）学位の授与（3）そのほか教育研究に関し、学群及び学系の意見を聞くことが必要なものとして学長が定める重要な事項。協議会は月2回定期的に開催する。

②

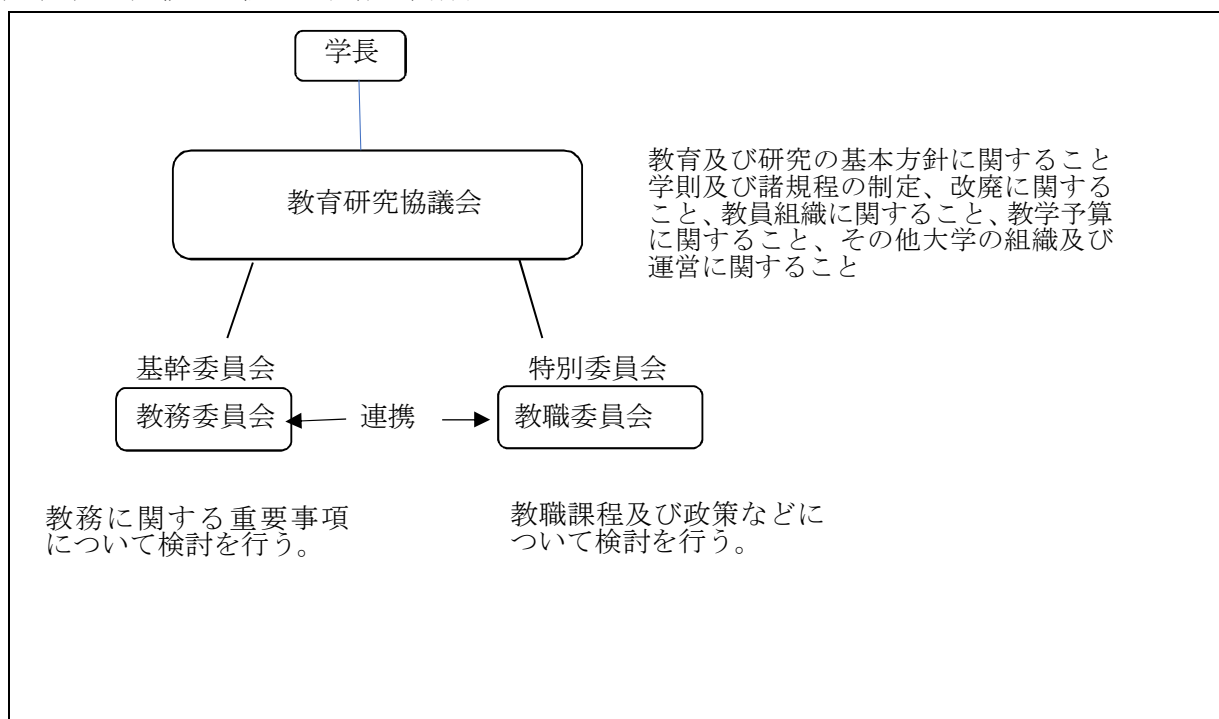
組織名称：	教職委員会
目的：	学長の命を受け、教職課程及び政策などについて検討を行う。
責任者：	副学長
構成員（役職・人数）：	副学長、教育の基礎的理解に関する科目等を担当する教職専任教員、教職課程を有する専攻の専攻長、学長が任命する教員及び事務職員 令和7年度の構成人数は11人。
運営方法：	委員長は学長が指名する。副委員長は委員長が指名し、委員長を補佐する。教職委員会は、教職課程におけるカリキュラムに関する事項、担当者に関する事項、科目等履修生の受け入れ他教育・運営に関する事項、その他教職課程に関する事項について審議する。 また、学長から委任された事項について検討し、教育研究協議会において、学長に意見を述べる。

②

組織名称：	教務委員会
目的：	学長の命を受け、教育研究協議会のもと、教務に関する重要事項について検討を行う。
責任者：	副学長
構成員（役職・人数）：	学長が任命する副学長、各学系が選任し学長が任命する教員、学長が任命する事務職員。令和7年度の構成人数は9人。

様式第7号イ

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

札幌市立中学校における教育実習について

- ・教育実習は札幌市教育委員会及び札幌市立中学校長会からの協力を得て実施している。
- ・「教育実習に係わる説明会」にて、札幌市教育委員会及び札幌市立中学校長会から「教職指導のあり方や教職に求められる資質・能力について」の要望や意見を受け、学生指導に活用している。

北海道教育委員会と連携した教職ガイダンスについて

- ・毎年北海道教育委員会から職員を派遣していただき、学生の教員としての資質向上及び教職へのモチベーションアップを目的とした教職ガイダンスを開催している。

卒業生との連携について

- ・本学を卒業した教員で組織される「札幌大学教友会」と定期的に意見交換を行っている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称： 学生ボランティア事業（連携先：札幌市教育委員会）

連携先との調整方法： 本事業は平成24年5月に締結した札幌市教育委員会との協定に基づき実施している。毎年1月～3月にかけて札幌市教育委員会から学生派遣に関する案内が届く（主にメール）。札幌市教育委員会がボランティア派遣を希望する学校を集約し、派遣学生の調整を行っている。

様式第7号イ

具体的な内容： 札幌市立の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校にボランティア学生を派遣する事業である。ボランティアの内容は派遣される学校によって異なるが、少人数指導の補助、総合的な学習の時間の指導補助、学校行事における指導補助、部活動の指導補助、特別な支援を要する児童生徒の指導補助、スキー学習の指導補助、水泳学習の指導補助等を行う。

②

取組名称： 草の根教育実習（連携先：北海道教育委員会）

連携先の調整方法： 本事業は道内の教員養成課程を有する大学や市町村の地域創生部局と連携し、大学生が北海道ならではの小規模校などで特色ある学校体験を行う取組を積極的に進め、参加した学生が教職の魅力ややりがいを発見し、教員を目指す意識を一層高めるとともに、「質の高い教職人材の確保」に資する取り組みである。毎年5月頃に北海道教育庁から参加学生を募る通知があり、本学が参加希望学生を取りまとめ回答している（主にメール）。

具体的な内容： 教員を目指す学生が、北海道の地方の小規模校などにおいて、次の項目のいずれかに取り組む。

- ・ 授業参観、児童生徒の学習支援
- ・ T Tや教壇での学習指導の体験
- ・ 特別な配慮を必要とする児童生徒への支援
- ・ I C Tを活用した学習指導の体験
- ・ クラブ活動や児童会・生徒会活動、部活動指導等の体験
- ・ 現職教員との対話・交流
- ・ 地域理解につながる行事等への参加
- ・ その他、特色ある教育活動への参加等

Ⅲ. 教職指導の状況

学生が学びあう場所の提供

・ 教職を目指す学生が互いに学びあう場所として、学内に「教職センター」を設置している。センターでは経験豊富な教員や校長経験のある教員が幅広い教養や専門知識を身に着け、教育現場で即戦力として活躍できる教員を養成するため、教材研究や生徒指導方法などについて学生を指導している。また、センターには教科書や参考文献も設置されており、仲間同士が教員採用試験合格に向けて、切磋琢磨している。

学生による授業改善アンケート調査の実施

・ 各学期に全学で実施する授業改善アンケートについては教職課程の科目も対象となっており、その結果については各授業担当教員にフィードバックされ、授業及び指導の改善に活用している。

研修会への参加

・ 本学を卒業した教員で組織される「札幌大学校友会」が、毎年8月に本学を会場に研修会を開催している。この研修会には教職を志す学生も参加しており、学校や生徒の現状を現役教員から学ぶ機会となっている。

様式第7号ウ

＜人間社会学域 日本語・日本文化専攻＞（認定課程：中学（国語））

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、国語学や国文学などの専門的な知識について、基本的な理解を図る。
	4 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、国語学や国文学などの専門的な知識について、一層の理解を図る。
3年次	5 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。
	6 Semester	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成する。さらに、介護等体験を通して、個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深める。
4年次	7 Semester	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8 Semester	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第7号ウ

＜人間社会学域 日本語・日本文化専攻＞（認定課程：高校（国語））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、国語学や国文学などの専門的な知識について、基本的な理解を図る。
	4 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、国語学や国文学などの専門的な知識について、一層の理解を図る。
3年次	5 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。
	6 Semester	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成する。
4年次	7 Semester	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8 Semester	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第7号ウ

＜人間社会学域 歴史文化専攻＞（認定課程：中学（社会））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、日本史・外国史や地理学などの専門的な知識について、基本的な理解を図る。
	4 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、日本史・外国史や地理学などの専門的な知識について、一層の理解を図る。
3年次	5 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。
	6 Semester	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成する。さらに、介護等体験を通して、個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深める。
4年次	7 Semester	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8 Semester	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第8号ウ

＜人間社会学域 歴史文化専攻＞（認定課程：高校（地理歴史））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、日本史、外国史、人文地理学・自然地理学などの専門的な知識について、基本的な理解を図る。
	4 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、日本史、外国史、人文地理学・自然地理学などの専門的な知識について、一層の理解を図る。
3年次	5 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。
	6 Semester	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成する。
4年次	7 Semester	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8 Semester	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第7号ウ

＜人間社会学域 法学専攻＞（認定課程：中学（社会））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、法律学や政治学、社会学などの専門的な知識について、基本的な理解を図る。
	4 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、法律学や政治学、社会学などの専門的な知識について、一層の理解を図る。
3年次	5 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。
	6 Semester	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成する。さらに、介護等体験を通して、個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深める。
4年次	7 Semester	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8 Semester	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第7号ウ

<人間社会学域 法学専攻> (認定課程: 高校(公民))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1セメスター	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2セメスター	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3セメスター	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、法律学や政治学、社会学、経済学などの専門的な知識について、基本的な理解を図る。
	4セメスター	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、法律学や政治学、社会学、経済学などの専門的な知識について、一層の理解を図る。
3年次	5セメスター	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。
	6セメスター	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成する。
4年次	7セメスター	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8セメスター	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第7号ウ

＜人間社会学域 スポーツ文化専攻＞（認定課程：中学（保健体育））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、保健体育科関連科目の基本的な専門的知識理解を図るとともに、専門実技（屋外種目）の理論と実技における指導能力を身につける。
	4 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、保健体育科関連科目の基本的な専門的知識理解を図るとともに、専門実技（屋内種目）の理論と実技における指導能力を身につける。
3年次	5 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。さらに、保健体育科教育と生涯スポーツ関連科目の知識を獲得し、幅広い視野で保健体育科教育について考えられるようにする。
	6 Semester	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成するとともに、保健体育科教育と生涯スポーツ関連科目の知識を獲得し、演習を通じて知識を実践に活かす能力を身につける。さらに、介護等体験を通して、個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深める。
4年次	7 Semester	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8 Semester	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第7号ウ

＜人間社会学域 スポーツ文化専攻＞（認定課程：高校（保健体育））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、保健体育科関連科目の基本的な専門的知識理解を図るとともに専門実技(屋外種目)の理論と実技における指導能力を身につける。
	4 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、保健体育科関連科目の基本的な専門的知識理解を図るとともに専門実技(屋内種目)の理論と実技における指導能力を身につける。
3年次	5 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。さらに、保健体育科教育と生涯スポーツ関連科目の知識を獲得し、幅広い視野で保健体育科教育について考えられるようにする。
	6 Semester	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成する。さらに、保健体育科教育と生涯スポーツ関連科目の知識を獲得し、演習を通じて知識を実践に活かす取り組みができるようにする。
4年次	7 Semester	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8 Semester	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第7号ウ

<人間社会学域 英語専攻> (認定課程: 中学(英語))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、英語学や英語コミュニケーションなどの専門的な知識について、基本的な理解を図る。
	4 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、英語学や英語コミュニケーションなどの専門的な知識について、一層の理解を図る。
3年次	5 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。
	6 Semester	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成する。さらに、介護等体験を通して、個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深める。
4年次	7 Semester	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8 Semester	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第7号ウ

＜人間社会学域 英語専攻＞（認定課程: 高校（英語））

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、英語学や英語コミュニケーションなどの専門的な知識について、基本的な理解を図る。
	4 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、英語学や英語コミュニケーションなどの専門的な知識について、一層の理解を図る。
3年次	5 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。
	6 Semester	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成する。
4年次	7 Semester	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8 Semester	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第7号ウ

＜人間社会学域 経営学専攻情報経営コース＞（認定課程：高校（情報））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、情報社会や情報倫理、情報システム、マルチメディア技術など専門的な知識について、基本的な理解を図る。
	4 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、また、情報社会や情報倫理、情報システム、マルチメディア技術など専門的な知識について、一層の理解を図る。
3年次	5 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。
	6 Semester	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成する。
4年次	7 Semester	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8 Semester	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第7号ウ

＜人間社会学域 経営学専攻経営・会計コース＞（認定課程：高校（商業））

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	入学時のガイダンス等を通じて、教職の意義の基本を理解し、教職を志望する上で必要な事項を把握する。
	2 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職の意義や教員の使命と責任等について理解を図る。また、教職への意志や情熱を確かなものにする。
2年次	3 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる基本的な知識や態度を養う。特に、教育の理念や歴史、学校教育の意義と役割、生徒の成長・発達について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化により生じる新たな教育課題に関心を持つことができる。また、商業に関する専門的な知識や職業指導について、基本的な理解を図る。
	4 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職に求められる確かな知識や態度を養う。特に、教育課程や教育方法・技術について理解し、社会状況や時代の変化、子どもたちの変化による新たな教育課題を主体的に捉える姿勢を身につける。また、商業に関する専門的な知識や職業指導について、一層の理解を図る。
3年次	5 Semester	教職関連科目の履修やガイダンス等を通して、教職への知識や態度を一層確かなものにしていく。特に、教科指導や生徒指導、進路指導についての理解を図る。また、学校ボランティア等への参加を通して、学校や生徒への理解を深めるとともに、社会性や対人関係能力を養う。
	6 Semester	教育実習に向けて、教職への一層強い意志や情熱を形成する。また、社会性や対人関係能力、教科指導や生徒指導等の実践につながる確かな力量を形成する。
4年次	7 Semester	教育実習を通して、教職のあり方や教科指導、生徒指導等の実際を体験し、教職への理解を一層深めていく。また、教職に就く上での自己の課題を把握する。
	8 Semester	教職への使命感や情熱、教育の専門家としての力量、社会性や対人関係能力等、教員として最小限必要な資質能力が形成されたかを確認する。また教職に就く上での自己の課題を自覚し、改善を図る。

様式第7号ウ（教諭）

<人間社会学域 日本語・日本文化専攻>（認定課程：中学（国語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 セ メ ス タ ー				日本国憲法	
					健康論	
					英語Ⅰ	
					情報リテラシー	
	2 タ セ メ ス	教職論	日本語学入門		生涯スポーツD	
2年次	3 タ セ メ ス	教育原理	日本文学史	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	漢文学			
		特別支援教育入門	日本語文法論Ⅰ			
	4 セ メ ス タ ー	教育制度論	日本語概論			
		教育課程論	日本語表現論			
		教育の方法及び技術 (ICTの活用を含む)	日本語文法論Ⅱ			
			社会言語学概論			
			文学と現代社会			
			日本文学概論			
3年次	5 セ メ ス タ ー	国語科指導法Ⅰ	書道	学校ボランティアⅠ		
		国語科指導法Ⅲ	言語学Ⅰ			
		道徳教育論	日本文学特講A			
		生徒指導論	日本文学特講B			
		進路指導論				
		教育相談				
	6 タ セ メ ス	国語科指導法Ⅱ	言語学Ⅱ	教育情報論		
		国語科指導法Ⅳ	日本語学応用	学校ボランティアⅡ		
		特別活動・総合的な学習 の時間の指導法	日本語学特講			
4年次	7 タ セ メ	教育実習(中高)				
	8 タ セ メ ス	教育実習(中高)				
		教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ(教諭)

<人間社会学域 日本語・日本文化専攻>(認定課程:高校(国語))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 セ メ ス タ ー				日本国憲法	
					健康論	
					英語 I	
					情報リテラシー	
	2 タ セ メ ス	教職論	日本語学入門		生涯スポーツD	
2年次	3 タ セ メ ス	教育原理	日本文学史	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	漢文学			
		特別支援教育入門	日本語文法論 I			
	4 セ メ ス タ ー	教育制度論	日本語概論			
		教育課程論	日本語表現論			
		教育の方法及び技術 (ICTの活用を含む)	日本語文法論 II			
			社会言語学概論			
			文学と現代社会			
			日本文学概論			
	3年次	5 セ メ ス タ ー	国語科指導法 I	言語学 I	学校ボランティア I	
生徒指導論			日本文学特講A	道德教育論		
進路指導論			日本文学特講B			
教育相談						
6 タ セ メ ス		国語科指導法 II	言語学 II	教育情報論		
		特別活動・総合的な学習 の時間の指導法	日本語学応用	学校ボランティア II		
			日本語学特講			
4年次	7 タ セ メ ス	教育実習(高)				
	8 タ セ メ ス	教育実習(高)				
		教職実践演習(中・高)				

＜人間社会学域 歴史文化専攻＞（認定課程：中学（社会））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 セ メ ス タ ー				日本国憲法	
					健康論	
					英語 I	
					情報リテラシー	
	2 セ メ ス タ ー	教職論	法学		生涯スポーツD	
2年次	3 セ メ ス タ ー	教育原理	外国史(東洋史)B	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	人文地理学			
		特別支援教育入門	マクロ経済学 I			
			ミクロ経済学 I			
			政治学			
	4 セ メ ス タ ー	教育制度論	外国史(東洋史)A			
		教育課程論	外国史(西洋史)B			
		教育の方法及び技術 (ICTの活用を含む)	日本史概論 I			
			日本史概論 II			
			地誌学			
3年次	5 セ メ ス タ ー	社会科・公民科指導法 I	外国史(西洋史)A	学校ボランティア I		
		社会科・地理歴史科指導法 I	自然地理学 I			
		道徳教育論	哲学			
		生徒指導論				
		進路指導論				
		教育相談				
	6 セ メ ス タ ー	社会科・公民科指導法 II	自然地理学 II	教育情報論		
		社会科・地理歴史科指導法 II	国際法	学校ボランティア II		
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	倫理学			
4年次	7 セ メ ス タ ー	教育実習(中高)				
	8 セ メ ス タ ー	教育実習(中高)				
		教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ（教諭）

<人間社会学域 歴史文化専攻>（認定課程：高校（地理歴史））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 セ メ ス タ ー		考古学特講Ⅰ		日本国憲法	
					健康論	
					英語Ⅰ	
					情報リテラシー	
	2 タ セ メ ス	教職論	考古学特講Ⅱ		生涯スポーツD	
			アイヌの歴史			
2年次	3 タ セ メ ス	教育原理	外国史(東洋史)B	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	人文地理学			
		特別支援教育入門				
	4 セ メ ス タ ー	教育制度論	外国史(東洋史)A			
		教育課程論	外国史(西洋史)B			
		教育の方法及び技術 (ICTの活用を含む)	日本史概論Ⅰ			
			日本史概論Ⅱ			
			地誌学			
3年次	5 セ メ ス タ ー	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	外国史(西洋史)A	学校ボランティアⅠ		
		生徒指導論	自然地理学Ⅰ	道徳教育論		
		進路指導論	日本北方史			
		教育相談				
	6 タ セ メ ス	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	自然地理学Ⅱ	教育情報論		
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法		学校ボランティアⅡ		
4年次	7 タ セ メ ス	教育実習(高)				
	8 タ セ メ ス	教育実習(高)				
		教職実践演習(中・高)				

<人間社会学域 法学専攻>（認定課程：中学（社会））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 セ メ ス タ ー				憲法入門	
					健康論	
					英語 I	
					情報リテラシー	
	2 タ ー セ メ ス 	教職論	法学		生涯スポーツD	
		憲法 I（統治）				
		民法 I（総則）				
2年次	3 セ メ ス タ ー	教育原理	憲法 II（人権）	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	政治学			
		特別支援教育入門	マクロ経済学 I			
			ミクロ経済学 I			
			人文地理学			
	4 セ メ ス タ ー	教育制度論	民法 III（債権法）			
		教育課程論	外国史（東洋史）A			
		教育の方法及び技術（ICTの活用を含む）	日本史概論 I			
			日本史概論 II			
			地誌学			
3年次	5 セ メ ス タ ー	社会科・公民科指導法 I	哲学	学校ボランティア I		
		社会科・地理歴史科指導法 I	外国史（東洋史）B			
		道徳教育論	外国史（西洋史）A			
		生徒指導論	自然地理学 I			
		進路指導論				
		教育相談				
	6 セ メ ス タ ー	社会科・公民科指導法 II	国際法	教育情報論		
		社会科・地理歴史科指導法 II	倫理学	学校ボランティア II		
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	外国史（西洋史）B			
			自然地理学 II			
4年次	7 タ ー メ ス	教育実習（中高）				
	8 タ ー セ メ ス	教育実習（中高）				
		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ（教諭）

<人間社会学域 法学専攻>（認定課程：高校（公民））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 セ メ ス タ ー				憲法入門	
					健康論	
					英語 I	
					情報リテラシー	
	2 タ セ メ ス	教職論	法学		生涯スポーツD	
2年次	3 セ メ ス タ ー	教育原理	憲法 II（人権）	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	政治学			
		特別支援教育入門	マクロ経済学 I			
			ミクロ経済学 I			
	4 タ セ メ ス	教育制度論	民法 III（債権法）			
		教育課程論	社会学			
		教育の方法及び技術 (ICTの活用を含む)				
		社会科・公民科指導法 I	哲学	学校ボランティア I		
3年次	5 セ メ ス タ ー	生徒指導論		道徳教育論		
		進路指導論				
		教育相談				
	6 タ セ メ ス	社会科・公民科指導法 II 特別活動・総合的な学習の時間の指導法	国際法 倫理学	教育情報論 学校ボランティア II		
4年次	7 タ セ メ ス	教育実習(高)				
	8 タ セ メ ス	教育実習(高)				
		教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ（教諭）

<人間社会学域 英語専攻>（認定課程：中学（英語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 セ メ ス タ ー		Practical English I A		日本国憲法	
					健康論	
					韓国語 I	
					情報リテラシー	
	2 タ セ メ ス	教職論	Practical English II A		生涯スポーツD	
			Pronunciation			
2年次	3 セ メ ス タ ー	教育原理	英語文学概論	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	Practical English III			
		特別支援教育入門	Reading III			
			Writing I			
			Intercultural Studies			
	4 タ セ メ ス	教育制度論	英語学概論			
		教育課程論	Practical English IV			
		教育の方法及び技術 (ICTの活用を含む)	Reading IV			
			Writing II			
3年次	5 セ メ ス タ ー	英語科指導法 I		学校ボランティア I		
		英語科指導法 III				
		道德教育論				
		生徒指導論				
		進路指導論				
		教育相談				
	6 タ セ メ ス	英語科指導法 II		教育情報論		
		英語科指導法 IV		学校ボランティア II		
		特別活動・総合的な学習 の時間の指導法				
4年次	7 タ セ メ ス	教育実習(中高)				
	8 タ セ メ ス	教育実習(中高)				
		教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ（教諭）

<人間社会学域 英語専攻>（認定課程：高校（英語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 セ メ ス タ ー		Practical English I A		日本国憲法	
					健康論	
					韓国語 I	
					情報リテラシー	
	2 タ セ メ ス	教職論	Practical English II A		生涯スポーツD	
			Pronunciation			
2年次	3 セ メ ス タ ー	教育原理	英語文学概論	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	Practical English III			
		特別支援教育入門	Reading III			
			Writing I			
	4 セ メ ス タ ー		Intercultural Studies			
		教育制度論	英語学概論			
		教育課程論	Practical English IV			
		教育の方法及び技術 (ICTの活用を含む)	Reading IV			
	Writing II					
3年次	5 セ メ ス タ ー	英語科指導法 I		学校ボランティア I		
		生徒指導論		道徳教育論		
		進路指導論				
		教育相談				
	6 タ セ メ ス	英語科指導法 II		教育情報論		
		特別活動・総合的な学習 の時間の指導法		学校ボランティア II		
4年次	7 タ セ メ ス	教育実習(高)				
	8 タ セ メ ス	教育実習(高)				
		教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ（教諭）

＜人間社会学域 スポーツ文化専攻＞（認定課程：中学（保健体育））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 セ メ ス タ ー				日本国憲法	
					健康論	
					英語 I	
					情報リテラシー	
	ス タ ー 2 セ メ ス タ ー	教職論			生涯スポーツD	
2年次	3 タ ー セ メ ス タ ー	教育原理	スポーツ哲学	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	スポーツ社会学			
		特別支援教育入門	救急・応急処置演習			
	4 セ メ ス タ ー	教育制度論	スポーツ心理学			
		教育課程論	スポーツマネジメント			
		教育の方法及び技術 (ICTの活用を含む)	運動学(バイオメカニクス)			
			スポーツ教育学			
			生理学(運動生理学を含む)			
3年次	5 セ メ ス タ ー	保健体育科指導法 I	衛生学及び公衆衛生学	学校ボランティア I		
		保健体育科指導法 III	学校保健			
		道徳教育論	陸上競技			
		生徒指導論	武道A			
		進路指導論	ゴール型球技A			
		教育相談	ゴール型球技B			
			野球型球技			
	6 セ メ ス タ ー	保健体育科指導法 II	体操・器械体操	教育情報論		
		保健体育科指導法 IV	水泳	学校ボランティア II		
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	武道B			
			ダンス			
			ネット型球技A			
			ネット型球技B			
4年次	タ メ 7 ス セ	教育実習(中高)				
	8 タ セ メ ス	教育実習(中高)				
		教職実践演習(中・高)				

＜人間社会学域 スポーツ文化専攻＞（認定課程：高校（保健体育））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 タ セ メ ス				日本国憲法	
					健康論	
					英語 I	
					情報リテラシー	
1年次	ス 2 タ セ メ	教職論			生涯スポーツD	
2年次	3 タ セ メ ス	教育原理	スポーツ哲学	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	スポーツ社会学			
		特別支援教育入門	救急・応急処置演習			
	4 セ メ ス タ ー	教育制度論	スポーツ心理学			
		教育課程論	スポーツマネジメント			
		教育の方法及び技術 (ICTの活用を含む)	運動学(バイオメカニクス)			
			スポーツ教育学			
		生理学(運動生理学を含む)				
3年次	5 セ メ ス タ ー	保健体育科指導法 I	衛生学及び公衆衛生学	学校ボランティア I		
		生徒指導論	学校保健	道徳教育論		
		進路指導論	陸上競技			
		教育相談	武道A			
			ゴール型球技A			
			ゴール型球技B			
			野球型球技			
	6 セ メ ス タ ー	保健体育科指導法 II	体操・器械体操	教育情報論		
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	水泳	学校ボランティア II		
			武道B			
			ダンス			
			ネット型球技A			
			ネット型球技B			
4年次	ス 7 タ セ メ	教育実習(高)				
	8 タ セ メ ス	教育実習(高)				
		教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ（教諭）

<人間社会学域 経営学専攻情報経営コース>（認定課程：高校（情報））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 セ メ ス タ ー				日本国憲法	
					健康論	
					英語 I	
					情報リテラシー	
	2 セ メ ス タ ー	教職論			生涯スポーツD	
2年次	3 セ メ ス タ ー	教育原理	産業情報総論	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	情報倫理			
		特別支援教育入門	情報と職業			
			データベース論			
			情報システム構築			
			インターネット概論			
	4 セ メ ス タ ー	教育制度論	産業情報各論			
		教育課程論	情報と職業			
		教育の方法及び技術 (ICTの活用を含む)	情報通信論			
			コンピュータ・ネット ワーク論			
		情報メディア論				
3年次	5 セ メ ス タ ー	情報科指導法 I	プログラミング	学校ボランティア I		
		生徒指導論	画像処理	道徳教育論		
		進路指導論	マルチメディア実習			
		教育相談				
	6 セ メ ス タ ー	情報科指導法 II		教育情報論		
		特別活動・総合的な学習 の時間の指導法		学校ボランティア II		
4年次	7 セ メ ス タ ー	教育実習(高)				
	8 セ メ ス タ ー	教育実習(高)				
		教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ（教諭）

<人間社会学域 経営学専攻経営・会計コース>（認定課程：高校（商業））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	1 セ メ ス タ ー				日本国憲法	
					健康論	
					英語 I	
					情報リテラシー	
	2 タ セ メ ス	教職論	経営学基礎		生涯スポーツD	
		基礎簿記				
2年次	3 セ メ ス タ ー	教育原理	経営管理論	ダイバーシティと教育		
		教育心理学	マーケティング概論			
		特別支援教育入門	財務会計			
			現代企業論			
	4 セ メ ス タ ー	教育制度論	経営管理論			
		教育課程論	マーケティング戦略			
		教育の方法及び技術 (ICTの活用を含む)	職業指導論			
		企業社会論				
3年次	5 セ メ ス タ ー	商業科指導法 I	商業簿記	学校ボランティア I		
		生徒指導論	原価計算基礎	道德教育論		
		進路指導論				
		教育相談				
	6 タ セ メ ス	商業科指導法 II	工業簿記	教育情報論		
		特別活動・総合的な学習 の時間の指導法	原価計算応用	学校ボランティア II		
4年次	7 タ セ メ ス	教育実習(高)				
	8 タ セ メ ス	教育実習(高)				
		教職実践演習(中・高)				